

五逆等の惡機を損すと雖も、未だ一字・一句の隨喜五十展転には及ばざるなり。此の經の大海に死屍を留めずとは、法華經に背く謗法の者は極善の人為りと雖も、猶之を捨つ。何に況や惡人なるの上、謗法を為さん者をや。設い諸經を誘すと雖も、法華經に背かざれば必ず仏道を成ず。設い一切經を信ずとも、法華經に背かば必ず阿鼻大城に墮つ。乃至第八には大海は自身の衆生あり等と云うは、大海には摩竭大魚等大身の衆生之有り。無間地獄と申すは縱広八万由旬なり。五逆の者無間地獄に墮ちては一人必ず充滿す。此の地獄の衆生は五逆の者大身の衆生なり。諸經の小河・大河の中には摩竭大魚之無し。法華經の大海には之有り。五逆の者仏道を成ず。是れ實には諸經に之無し。諸經に之有りと云うと雖も實には未顯眞実なり。故に一代聖教を誦せし天台智者大師の釈に云く、「他經は但菩薩に記して、二乘に記せず。乃至、但善に記して惡に記せず。今經は皆記す」等云云。余は且く之を略す。

第二には山に譬う。十宝山等とは山の中には須弥山第一なり。十宝山とは一には雪山・二には香山・三には軻梨羅山・四には仙聖山・五には由乾陀山・六には馬耳山・七には尼民陀羅山・八には斫伽羅山・九には宿慧山・十には須弥山なり。先の九山とは諸經諸山の如し。但し一一に財あり。須弥山は衆財を具して其の財に勝れたり。例せば世間の金の閻浮檀金に及ばざるが如し。華嚴經の法界唯心・般若の十八空・大日經の五相成身・觀經の往生より法華經の即身成仏勝れたるなり。須弥山は金色なり。一切の牛馬・人天・衆鳥等此の山に依れば必ず本色を失して金色なり。余山は爾らず。一切の諸經法華經に依れば本の色を失う。例せば黒色の物、日月の光に値いて色を失うが如し。諸經の往生成仏等の色は、